

編集後記

源氏物語千年紀を記念して、一年遅れとはなったが、『藤女子大学国文学雑誌』第八十号は、源氏物語の小特集を組むことになった。本学教員による特集論文四篇は、日本語学・上代文学・平安文学・近世文学の各専門分野を背景としたアプローチがそれぞれに試みられており、源氏の特集号としてはユニークなものになったのではないかと思う。また、一般論文は、本学教員の他に、大学院に進学し研究を続けている卒業生による投稿論文を収め、節目の八十号は多彩な内容になったと思う。

さて、去る二〇〇八年の源氏物語千年紀は、『紫式部日記』の敦成親王（後一条天皇）誕生関連記事中に初めて『源氏物語』に関する記載が見出されることに由来するというもののようなのだが、では、紫式部が何故、『源氏物語』と敦成親王を関連付けるような書き留め方をしたのか、ということについてはさほど気に留められていないようである。もう少しこの機会にそのあたりについてじっくりと考えてみる必要があるようにも思われる。いわゆる千年紀の祭典の年が終わった今こそ、冷静に『源氏物語千年紀』とは何であるのかをあらためて問うてみるのも意義あることだろう。本特集号は必ずしもそうした思いを共有して編まれたものではないが、少なくとも『源氏祭り』の年を外しての刊行ということには個人的にはそれなりの意義があったと感じている。

（小山）

二〇〇九年三月二十五日 印刷
二〇〇九年三月三十日 発行

藤女子大学 国文学雑誌（第80号）

定価 五〇〇円 送料八〇円

振替 〇二七〇〇四一六八〇七番

編集人 種田和加子
発行人

札幌市北区北十六条西二丁目

発行所 藤女子大学日本語・日本文学研究室内

藤女子大学日本語・日本文学系

印刷所

札幌市中央区北六条西十五丁目

(株) 491 アヴァン 札幌